

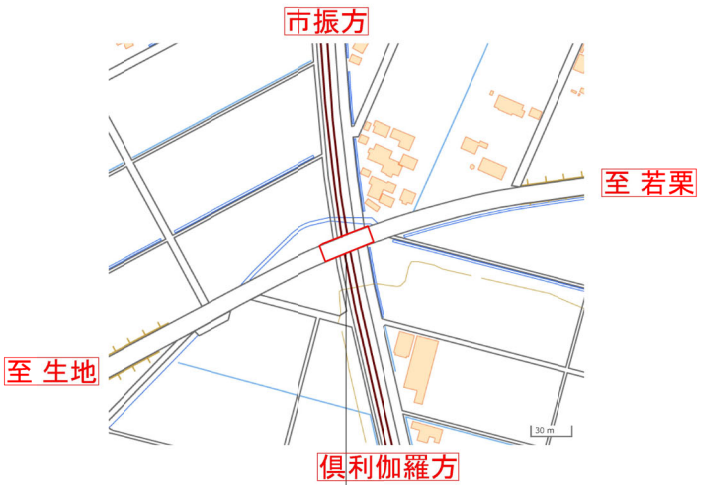
飯沢跨線橋 位置図



平面図 S=1:25000



a 部拡大図 S=1:2000



飯沢跨線橋
(あいの風とやま鉄道線跨線部)

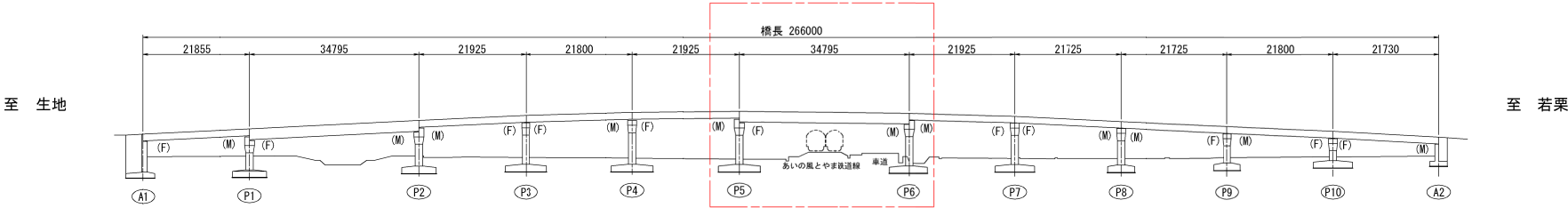
工事位置
あいの風とやま鉄道線 黒部・生地間 279k568m付近 飯沢こ線橋

出典元: 国土地理院地図より

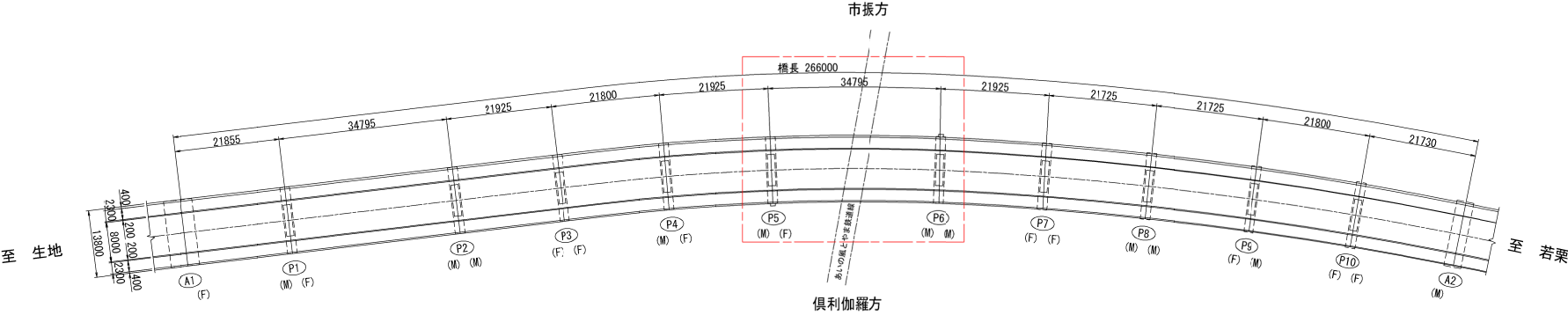
番号	施26第221号	図番	1 / 10
件名	飯沢こ線道路橋補修他工事		
図名	位置図		
あいの風とやま鉄道株式会社			

飯沢跨線橋 全体一般図

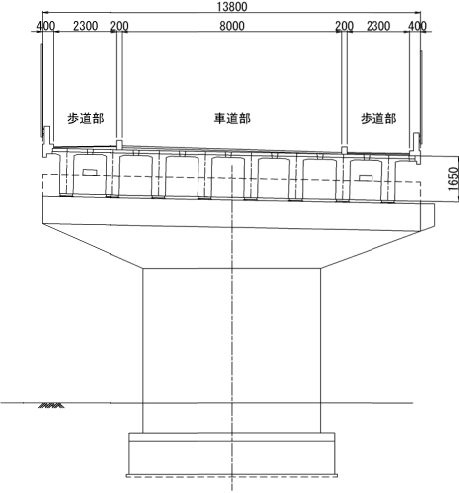
側面図 S=1:500



平面図 S=1:500



断面図 S=1:100

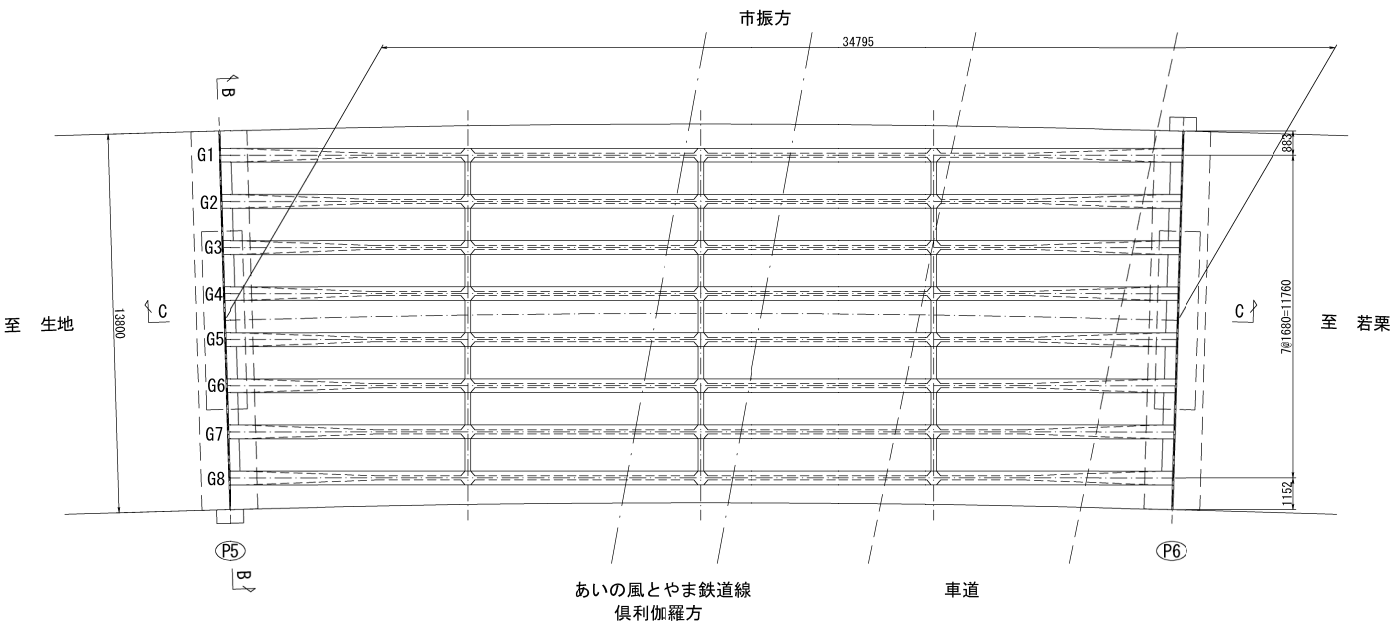


※1. 赤枠は対象範囲を示す。
※2. 本図は財産図を基に作成したものである。

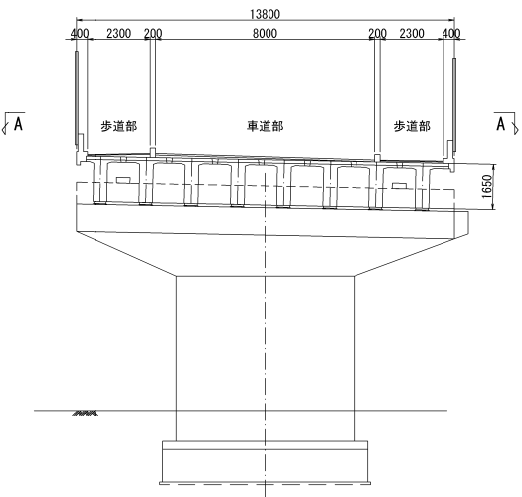
番号	施26第221号	図番	2 / 10
件名	飯沢こ線道路橋補修他工事		
図名	全体一般図		
あいの風とやま鉄道株式会社			

飯沢跨線橋 一般図 S=1:100

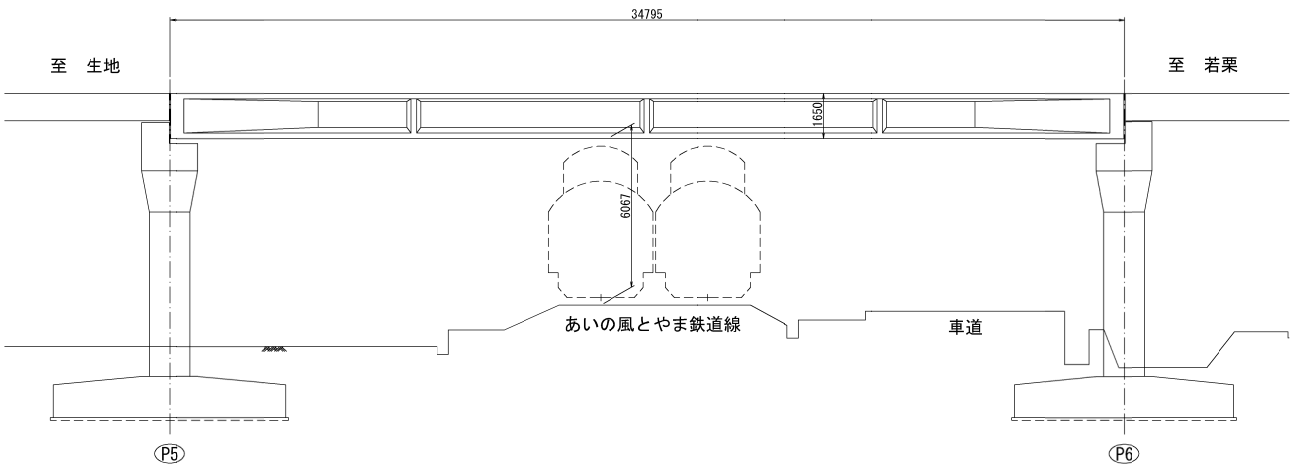
平面図
(A-A)



断面図
(B-B)



側面図
(C-C)

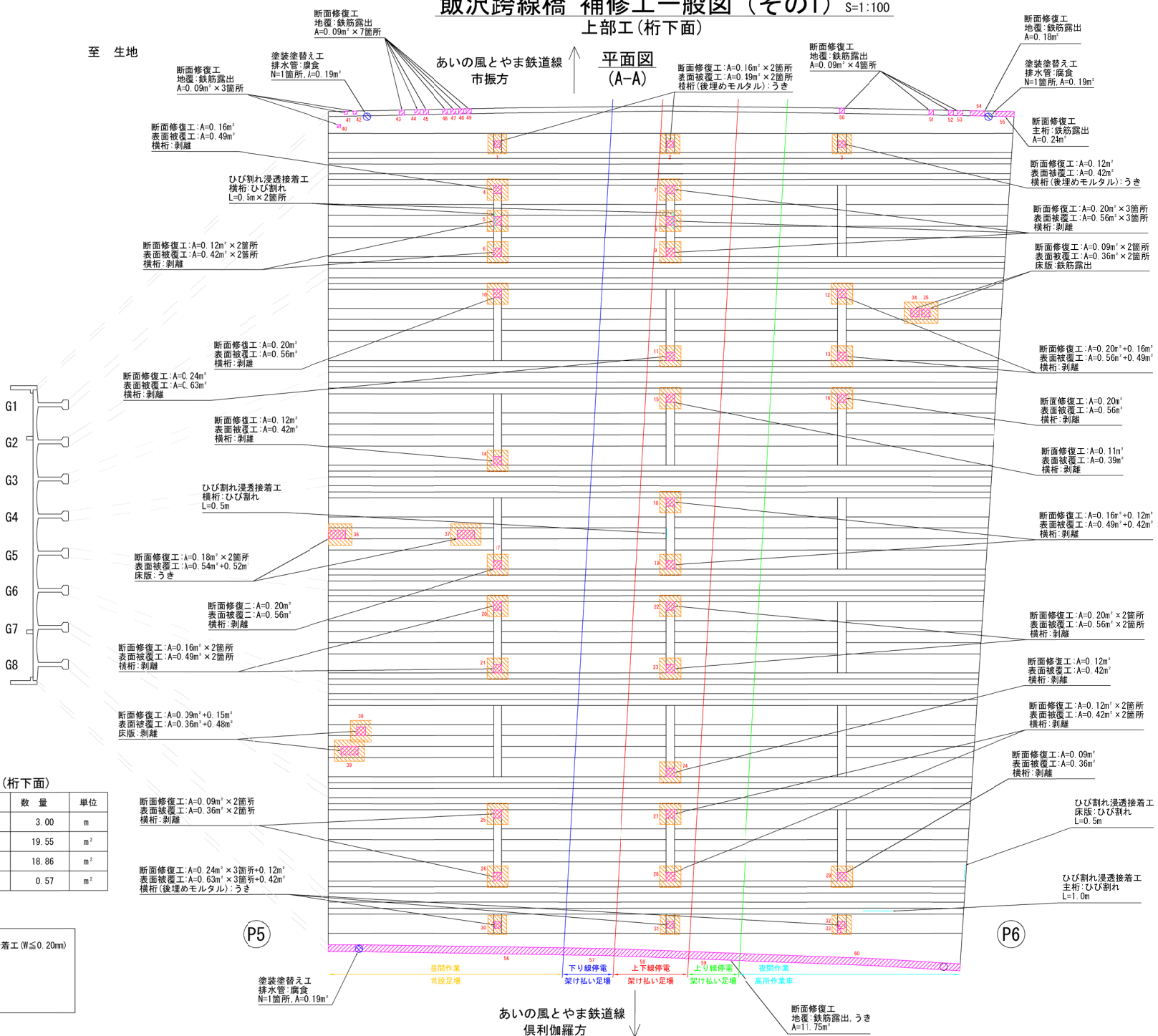


※1. 財産図を基に作成したものである。

番号	施26第221号	図番	3 / 10
件名	飯沢こ線道路橋補修他工事		
図名	一般図		
あいの風とやま鉄道株式会社			

飯沢跨線橋 補修工一般図 (その1) S=1:100

上部工 (桁下面)



補修数量 上部工 (桁下面)

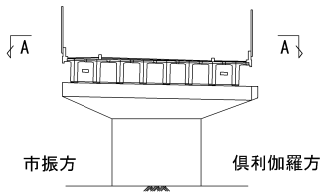
項目	数量	単位
ひび割れ浸透接着工	3.00	m
断面修復工	19.55	m ²
表面被覆工	18.86	m ²
塗装塗替え工	0.57	m ²

凡例

- ひび割れ浸透接着工 (W≦0.20mm)
- 断面修復工
- 表面被覆工
- 塗装塗替え工

至 若栗

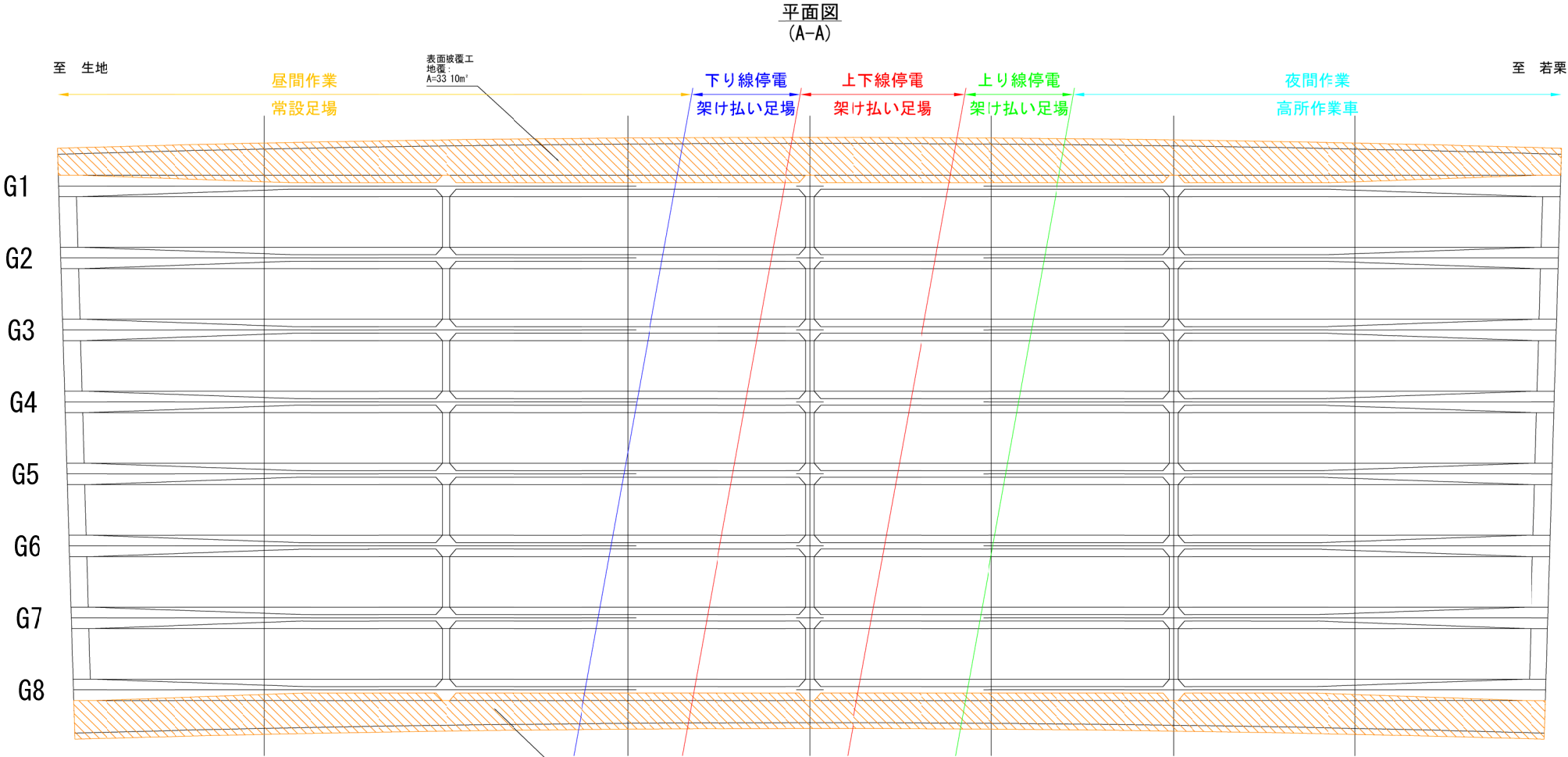
位置図



- ※1. 構造図は橋梁点検損傷図を基に作成したものである。
- ※2. 位置図は一般図を基に作成したものである。
- ※3. 断面修復範囲の補修寸法 (幅・長さ 等) は、橋梁点検損傷図を+200mm上げた値である。
- ※4. 補修寸法 (幅・長さ) 等は、橋梁点検損傷図数値を基本としている。

番号	施26第221号	図番	4 / 10
件名	飯沢こ線道路橋補修他工事		
図名	補修工一般図 (その1)		
あいの風とやま鉄道株式会社			

飯沢跨線橋 補修工一般図（その2） S=1:50
上部工（地覆下面）



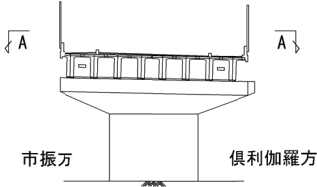
補修数量 上部工（地覆下面）

項目	数量	単位
表面被覆工	63.20	m ²

凡例

表面被覆工

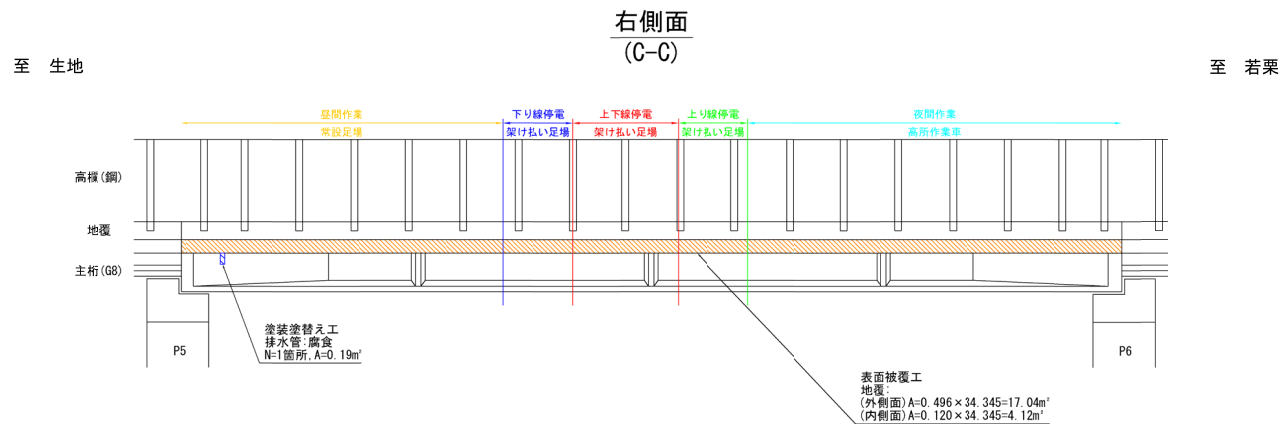
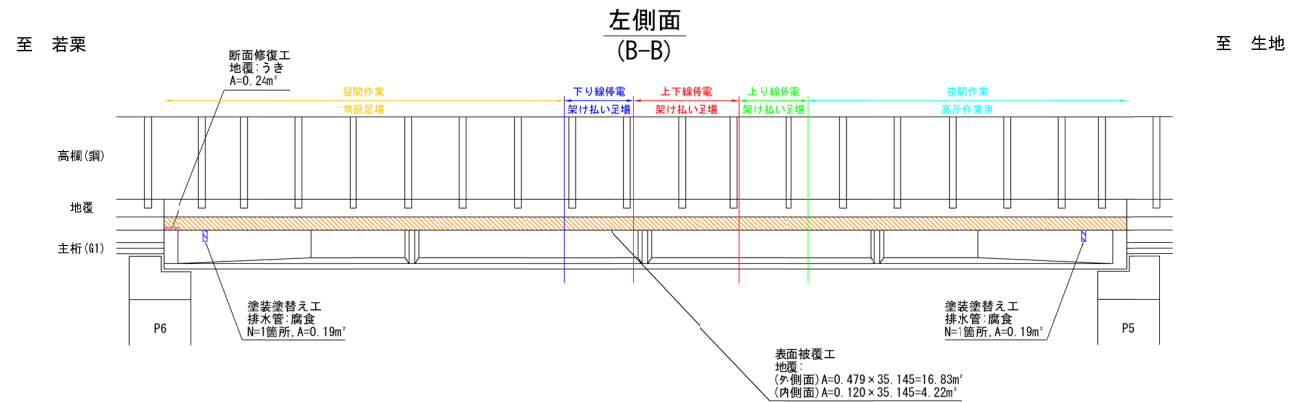
位置図



※1. 構造図は橋梁点検整備図を基に作成したものである。
※2. 位置図は一般図を基に作成したものである。
※3. 地覆下面の補修面積は、財産図のCAD計測を基本としている。

番号	施26第221号	図番	5 / 10
件名	飯沢こ線道路橋補修他工事		
図名	補修工一般図（その2）		
あいの風とやま鉄道株式会社			

飯沢跨線橋 補修工一般図（その3） S=1:100
上部工（地覆側面）

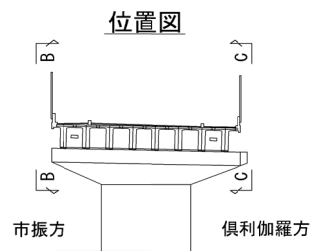


補修数量 上部工（地覆側面）

項目	数量	単位
断面修復工	0.24	m ²
表面被覆工	42.21	m ²
塗装塗替え工	0.57	m ²

凡例

- 断面修復工
- 表面被覆工
- 塗装塗替え工



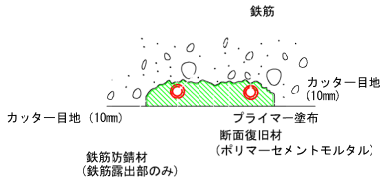
- ※1. 構造図は橋梁点検損傷図を基に作成したものである。
※2. 位置図は一般図を基に作成したものである。
※3. 断面修復範囲の補修寸法(幅・長さ等)は、橋梁点検損傷図を+200mm上げた値である。
※4. 補修寸法(幅・長さ)等は、損傷図および財産図のCAD計測を基本としている。

番号	施26第221号	図番	6 / 10
件名	飯沢こ線道路橋補修他工事		
図名	補修工一般図（その3）		
あいの風とやま鉄道株式会社			

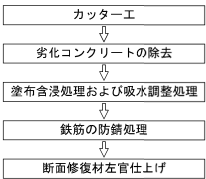
飯沢跨線橋 補修工法詳細図

断面修復工 S=1:5

左官工法



断面修復エフロー



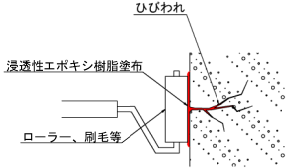
※左官工法

要求性能	設計および施工条件
圧縮強度	躯体コンクリートと同様な強度特性を有すること
付着強度	躯体コンクリートと一体となること（1.5N/mm ² 以上）

- ※1. 劣化コンクリートをはつとり、鉄筋露出部は鉄筋背面まで露出させて防錆処理を施し断面修復を行う。
※2. 修復材料は「断面修復材性能表」に示す性能を満足すること。
※3. 補修材の圧縮強度は母部材以上、付着強度1.5N/mm²以上を確保すること。
※4. はつる範囲には、カッター目地を10mm程度入れて、フェザーエッジにならないように注意すること。
※5. 施工時に、補修箇所（寸法など）を再度確認すること。

ひび割れ浸透接着工 S=1:1

（アルファテック388）



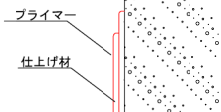
施工手順



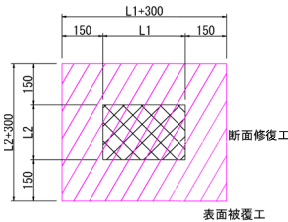
- ※1. 仕様 - 諸寸法 - 適応の可否は、現地再調査および照査の上で決定すること。
※2. 施工面の粉塵、油分等を除去すること。
※3. 主剤：硬化剤を容量比で計算する場合は2：1で計量し、空気の巻き込みに注意の上、十分に攪拌すること。（重量で計量する場合は主剤：硬化剤を7：3で計量し混合すること）
※4. 一度に混合する量は可使時間内に使い切れる量とすること。
※5. S、Wの使い分けの温度目安はいかの通り。【S：15℃以上 W：5～20℃】
※6. 塗布材を含ませたローラーを幅5cm位で7～8回塗布（液寄せ）すること。
※7. 硬化養生として、1時間程度は雨水などにさらされないようにすること。
※8. 可使時間経過後、ゲル化した部分を表面からゴムベラなどで取り除くこと。
※9. 初期硬化後（翌日）、表面の硬化樹脂をペーパーサンダーなどで除去すること。

表面被覆工 S=1:1

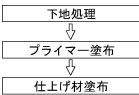
（ボンドVMクリア工法）



断面構成参考図



施工手順

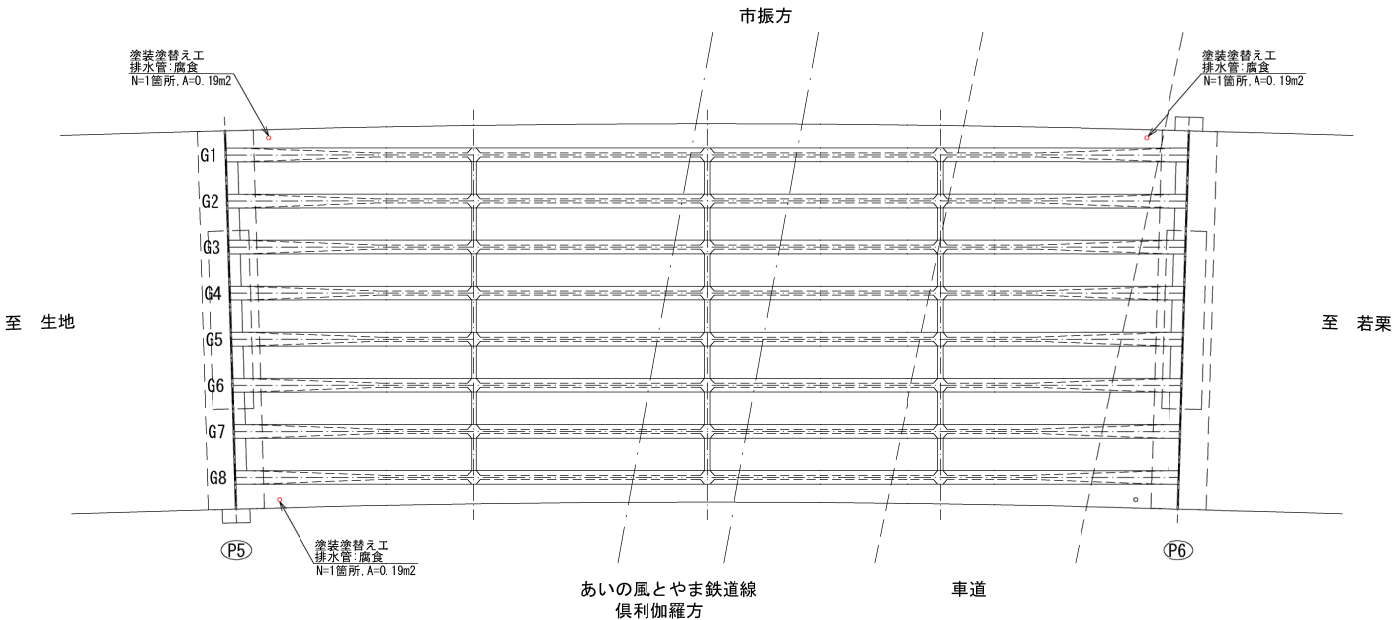


- ※1. 仕様-諸寸法-適応の可否は、現地再調査および照査の上で決定すること。
※2. 硬化養生として、塗料が完全に乾燥するまで水や粉塵が付着しないように養生を行うこと。
※3. 繊維練混ぜや塗布量は小片の剥落対策を想定しているため、メーカー指定の標準混合比にて行うこと。

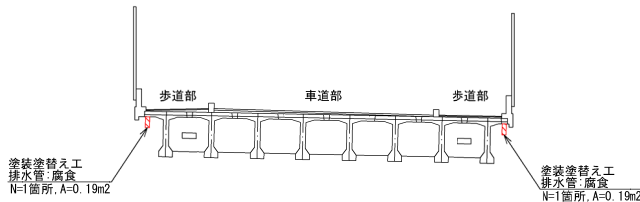
番号	施26第221号	図番	7 / 10
件名	飯沢こ線道路橋補修他工事		
図名	補修工法詳細図		
あいの風とやま鉄道株式会社			

飯沢跨線橋 塗装塗替え工詳細図

平面図 S=1:100

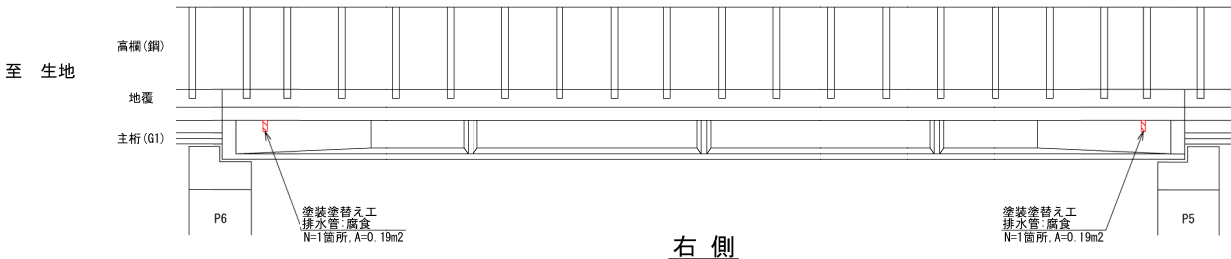


断面図 S=1:100

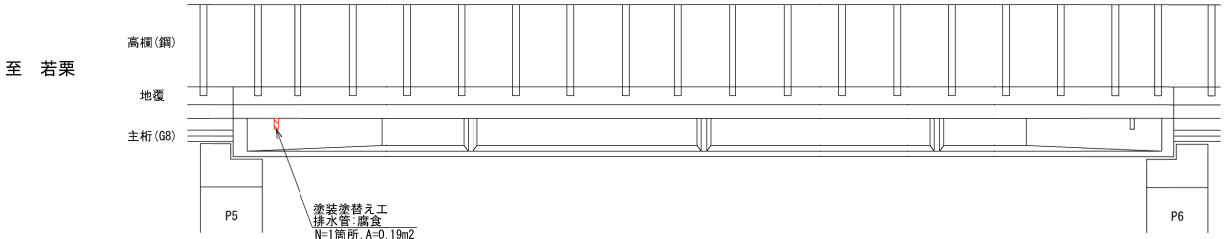


側面図 S=1:100

左側



右側



塗装塗替え仕様 (Rc-Ⅲ塗装系)

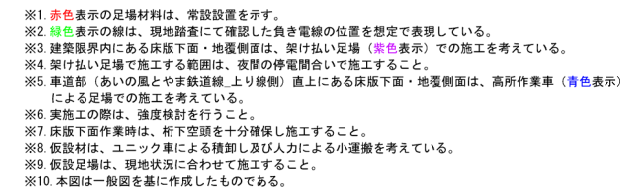
塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	3種		4時間以内
下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (鋼材露出部のみ)	(200)	1～10日
下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1～10日
下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1～10日
中塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	2～10日
上塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120	

※1. 本図は財産図を基に作成したものである。

番号	施26第221号	図番	8 / 10
件名	飯沢こ線道路橋補修他工事		
図名	塗装塗替え工詳細図		
あいの風とやま鉄道株式会社			

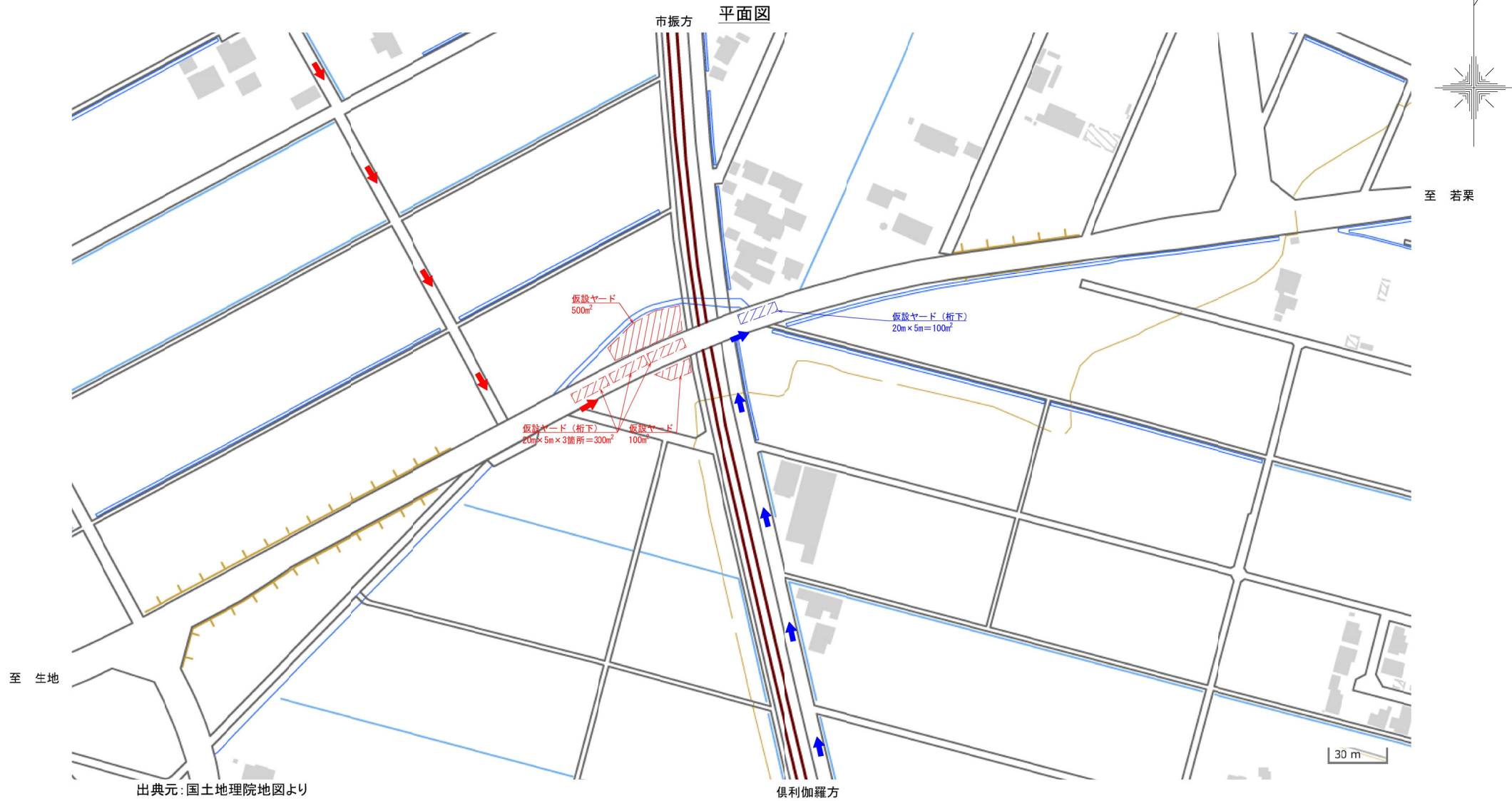
(常設足場 + 架け払い足場)

平面图



番号	施26第221号	図番	9 / 10
件名	飯沢こ線道路橋補修他工事		
図名	足場計画図（参考図）		
あいの風とやま鉄道株式会社			

飯沢跨線橋 進入路および仮設ヤード図 S=1:1000



凡例

→	進入路
▨	仮設ヤード(高架下)
→	進入路
▨	仮設ヤード(高架下)

番号	施26第221号	図番	10 / 10
件名	飯沢こ線道路橋補修他工事		
図名	進入路および仮設ヤード図		
あいの風とやま鉄道株式会社			